

CONTENTS COMBAT

2015.Oct.
No.475

10

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
TOMO HASEGAWA
©WORLD PHOTO PRESS 2015

※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



【第1特集/自衛隊】

陸上自衛隊 いまとむかし

008 多国間PKO訓練 カーンクエスト Part2

●取材：菊池雅之

012 警察予備隊から保安隊へ
陸上自衛隊誕生60年 前篇

●Text & Photos by K.Numata

020 自衛隊のカゴぶ 新隊員教育

●取材：菊池雅之

【第2特集/ミリタリー】

024 HELIKON-TEX
最新タクティカルギア

●Photos&Text by Tomo Hasegawa

048 The Equipments of the U.S. Force
[現用米軍装備カタログ]

夏の緊急企画 2015年後半から流行る現用装備アイテムを紹介!

●解説：松原隆 ●撮影：山崎 学

058 ドイツ連邦軍の新型汎用機関銃
HK121/MG5 実弾射撃

●Photos&Text by Robert Bruce ●Translation by Yu P. Eiwaikee

085 Militaria Roundup!
WWIIドイツ海軍ユニフォーム Part.3

●解説：菊月俊之

030 東京マルイ
電動コンパクトマシンガン シリーズ

●Photos&Text by Taku

036 WESTERN ARMS
M16 FULL METAL CUSTOM M16米海兵隊モデル

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

042 WESTERN ARMS
COLT COMBAT COMANDER RAIL GUN

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

068 NEW GENERATION STYLER
西側 '90年代装備オンリーサバゲー

●fujiwara

126 第25回 APS CUP

●Photos&Text by Taku



137

KNIFE

138 エングレーバー 星山文隆

●写真・文・校正史

142 スタッフ通信 from Knife Magazine Staff



004 COMBAT FRONT LINE

064 Goods & Accessory

078 トイガンニュース

078 WA ムービーガン・シリーズ

080 タナカ S&W M360 Sc .357MAGNUM &
S&W M360 PD .357MAGNUM

084 サーいじ技研

096 PRESENT

114 FEAR NOT THE DARK……
Power of Light

SURE FIRE

act011 戦場帰りの冒険ライト/パート2

E1DL DEFENDER ULTRA

●Photo & Text Tomo Hasegawa

118 走って撃って楽しんで
サバゲ放浪記 ゆい散歩 其の11 岡山編

取材：上矢ゆい

120 PROJECT NINJA

●morizo (東京装備BAKA)

124 兵装嗜癖

●by Fujiwara

132 マッドマックス・コンベンション2015

●Photos&Text by TOMO HASEGAWA

184 中田商店グッズ

186 S&Grafグッズ

097 GAME OVER THE TOP

100 USシューティングライフ! ●坂島宗貴

102 ミリタリー雑学講座

106 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

108 トイガンズ・ジャンクション

158 ブラックホール

161 バックナンバーリスト

162 ミリタリー・コレクション

164 レア・ミリタリー・テクノロジー

166 A STITCH IN TIME

167 死ななきゃ食える! 救荒食指南

168 狩野健一郎のシネマ放浪記

169 狩野健一郎の新作DVD紹介

170 蛙のゆびさき(中山 蛙)

172 戦車兵通信 WORLD OF TANKS

174 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記



自衛隊が警戒中、モンゴル軍が兵を進める。PKO訓練ならではの光景だ。



陸上自衛隊
いまとむかし
**Now
and
Then**

AKMをかまえて警戒するCRR隊員。今回は、車輜も装備もすべてモンゴル軍から借りた。



KHAAAN QUEST 2015

多国間PKO訓練 カーンクエスト PART.2



前回、陸自隊員と中国軍兵士が並んで訓練している姿に衝撃を受けた方も多かった事だろう。だが、特筆すべき内容はそれだけではない。日本ではなかなかその動向が報じられることが少ない軍も多く参加している。今回はその点に注目してみよう。

取材／菊池雅之

6月20日から7月1日までの間に行なわれた今回の「カーンクエスト15」はまさに衝撃的な訓練であった。この演習は、もともとアメリカとモンゴルによる2カ国間合同軍事演習としてスタートを切った。モンゴルは米有志連合としてイラクにも部隊を派遣しており、今後はPKO活動などにも力を入れていくため、国内にあるタバントロゴイ（英名：ファイブヒルズ）演習場を整備し、アジア有数のPKO訓練センターを作った。これに伴い、「カーンクエスト」は多国間PKO訓練へと姿を変えた。先月号でもお伝えしたとおり、陸自は「カーンクエスト」に25名もの部隊を送り込んだ。2009年より研修を目的としてオブザーバーを派遣してきたが、実動部隊の参加は初である。訓練を行なったのは、PKOをはじめとした海外派遣に最初に送られる中央即応連隊（Central Readiness Regiment :CRR）

である。国内外を大きく驚かせたのが、そのCRR隊員の隣で銃をかまえ警戒する中国人民解放軍兵士の姿であった。そう、この演習には中国軍も参加しており、演習の内容によっては、一緒に訓練をする機会があったのだ。陸自は'92年のカンボジアPKO派遣以来、20年以上に渡り、国際貢献活動として、PKOや国際緊急援助活動など、世界中に多くの部隊を派遣してきた。実は中国軍も初のPKO活動となったのが同じカンボジア派遣であった。だがその後の歩みは違った。まず日本は集団的自衛権を認められていないし、他国で警備活動を行なう事ができない。しかし中国は積極的に軍事行動を伴う海外派遣を実施。2013年には、平和維持軍として、マリ共和国へと派遣され、警備活動を行なっている。続いて2015年の南スーダンについては、紛争解決

のため、初めて戦闘部隊を派遣した。自衛隊と同様の後方支援活動から、リスクを負う活動へと切り替え、それが国際社会で評価されつつあるのだ。今まさに国会で審議されている通り、自衛隊にはできない活動が多い。しかしながら、インフラ整備や後方支援業務などの実任務を数多くこなしてきた実績がある。この点は国際社会から非常に高く評価されており、その20年のノウハウを享受したいと考える国が多いのも事実。そこで、今回は国際活動教育隊の隊員たちがPKOインストラクターとして、各国部隊を指導した。その中には、中国と同様に領土問題でもめる韓国軍の姿があった。ニュースで、自衛官がAKM等ロシア製の小銃を使って訓練している姿が報じられたが、これはモンゴル軍の装備だ。日本以外の国も同様に銃を借りて訓練した。



陸上自衛隊
いまとむかし
Now
and
Then

警察予備隊から保安隊へ

陸上自衛隊 誕生60年

前編

朝鮮戦争と冷戦の影響下、応急措置的に誕生した警察予備隊。そして規模を拡大した保安隊。戦後70年、そして創設から60年を超えた今、陸上自衛隊前史といえるこれら組織の変遷をユニフォーム、装備を通してたどる。

Text & Photos by K.Numata

マッカーサー書簡

終戦5年目を迎えようとしていた昭和25年（1950）7月8日、連合国軍の占領下にあった日本政府に対し、GHQ（連合軍最高司令官総司令部）から「マッカーサー書簡」（以下、書簡）と呼ばれる、一通の書類が提出された。

書簡が出される13日前の6月25日、朝鮮戦争が勃発し、韓国の首都ソウルは28日に陥落。そして7月5日、アメリカ陸軍の先遣部隊が烏山（オサン）の戦いで敗れ、釜山を目指す北朝鮮軍の攻撃は続いていた。

北朝鮮軍の南進を阻止するため、日本に駐留する4個師団（第7、24、25歩兵師団と第1騎兵師団）の出動が決定し、15日までに第7歩兵師団の3個歩兵連隊を除き順次出動していった。この派兵が日本の防衛と治安維持に空白をもたらす事になった。

当時の日本はインフレと失業の問題を、一般犯罪のほかに、労働争議や民主化要求など、革新勢力の影響を受けたデモや暴動事件が多発し不安定な社会状況だった。このような情勢のなか、日本の治安維持を担うアメリカ軍が不在となった事で、マッカーサーはこれまで以上の暴動・内乱が発生した場合、既存の警察力では対応できないと判断。また国内問題だけでなく、北海道方面

へソ連軍が進出する恐れもあり、治安と防衛の空白域を速やかに埋めるため、アメリカ軍に替る治安組織を早急に創設するよう、吉田茂首相に対して指示したのであった。

警察か？ 軍隊か？

設立を急がせるGHQは、日本の国会の立法手続きを得ずに法令を制定できる「ボツダム政令」として指令してきた。

書簡には「7万5,000名規模の組織を創設せよ」とあり、この指令を受け入れた日本政府は警察力の拡大強化と受け取る。しかしGHQは既存の警察とは違う政府直轄の組織を求めてきた。新たな組織は「警察軍」なのか「軍隊」なのか、組織設立に関する大綱をGHQが示すまでその実態をつかみきれないまま、GHQと折衝を重ねながら政府は創設のための準備に入る。

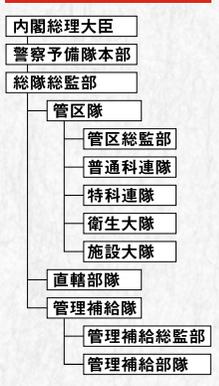
組織の名称は書簡に、「日本の社会秩序維持のため、National Police Reserve（ナショナル・ポリス・リザーブ）を設置せよ」と表記されていた事から、政府は「警察予備隊」と翻訳し、これが正式名称となる。そして7月17日、GHQの大綱が日本政府に手渡された。

GHQの大綱には、新組織は「内閣総理大を直轄とする、国内における事変、暴動などに備えた治安警察隊」と位置

警察予備隊 創設時組織



警察予備隊組織 昭和25年12月以降



保安隊組織 昭和27年10月



警察予備隊部隊配置 昭和26年3月



HELI KON- TEX

URBAN TACTICAL SHORT
TACTICAL T-SHIRT
URBAN TACTICAL POLO SHIRT



タクティカルウェア進化形最前線!! ヘリコンテックス社「アーバンタクティカルショート」と最新アイテム。「タフ」で「クール」で「動きやすい」「都市型」戦闘服の最新作。秘められた実用性、その魅力に迫る!

Photos&Text by Tomo Hasegawa

●問い合わせ先 / 中田商店 ☎03-3839-6866

<http://www.nakatashoten.com/>

Urban Tactical SHORTS

価格5,900円

ヘリコンテックス初のショートパンツ。従来の「アーバンタクティカルパンツ(以下UTP)」の実用性と格好良さをそのまま受け継ぎながら、長すぎず短すぎない、絶妙アレンジが超魅力的。なにより注目はスリムで「格好良く」、「動きやすい」ことだ(写真はコヨーテ色)。



フロントはファスナー&パイルテープ仕様。調整しやすいヘリコンテックスUTPのデザインを継承。バックポケットに小型ポケットを内蔵し、各種アイテムを効率よく周のできる。



立っていても座った状態でも、サイポケットからアイテムを取り出しやすい。実用的サイポケットも、UTPから小型化する事なく完全継承。

実力のタクティカルウェアブランド “ヘリコンテックス”

光学照準器やGPS、防弾装備やサブレッサー、強力な戦闘ライトという具合に、現代戦闘のあり方を急速に進化させたアイテムがある。そこにタクティカルウェアの存在も外せない。

各種装備を効率よく身に纏う事ができる。そして街頭で目立つ事無く行動しやすい。一見、相反する要素を可能にする「都市型カモフラージュ」ウェア。収納力をはじめ高い機能性は普段着としてとても重宝する。ファンならずとも愛用者が多い分野である。

各種ある中で、ここ数年飛躍的に人気を高めているブランドのひとつが“ヘリコンテックス”シリーズだ。

ポーランド発信のタクティカルウェア・メーカー。独自のポケット形状と配置が使い勝手が良い。さらにスリムなルックスもクール。しかもソフトな着心地で動きやすい。ミリタリーやタクティカル業界に留まらず、世界で人気を高めている。



ヒザを曲げるとニーパッドだけが着地、ヒザ裏がシワになりにくい絶妙サイズ。良いデザインだ。



スッキリ短いサイズながら、ヒザ頭を保護できる。ニーパッドが隠れる絶妙なサイズで使いやすい。独特のカットが実用的。

電動コンパクトマシンガン シリーズ

電動コンパクトマシンガンシリーズが 装いも新たにリニューアル!!

コンパクトなボディに搭載された高性能なメカで抜群の命中精度を実現した東京マルイの電動コンパクトマシンガン シリーズがリニューアルされた。

従来モデルでは7.2VマイクロバッテリーEXを使用していたが、高性能なニッケル水素バッテリーへの登場に伴い、東京マルイでもニッカドバッテリーの生産を取りやめ、ニッケル水素バッテリーへと切り替えた。これにより従来のバッテリーセットモデルは廃盤。バッテリー別売りの本体のみでのリニューアル販売となったのである。

リニューアルモデルの作動には、電動ハンドガン用の7.2Vニッケル水素マイクロ500バッテリーを使用する。このバッテリーは、ハンドガン用のため従来品に比べて小さいのだが、そこは東京マルイばかりはない。専用のアダプター「7.2Vマイクロ500バッテリーEX変換アダプター」を装着する事で問題なく使用が可能となる。この専用アダプターは本体とセットになっているので、購入の際はバッテリーと専用充電器を購入すればすぐに楽しめる。もちろん、このアダプターは別売（734円）も行なっているので、従来モデルを持っているユーザーもこれを手



Vz61 スコーピオン 本体セット

- 全長：270mm/522mm（ストック伸長時）
- 重量：1110g
- 装弾数：58発
- 価格：24,624円

ちょっと大きめのハンドガンよりも小さなサブマシンガンがVz61 スコーピオンだ。ハンドガンにフルオート機能のついたモデル以外では最も小さなサブマシンガンと言えるだろう。



Vz61 スコーピオンはグリップ下部のフタを取り外してバッテリー交換を行なう。3モデルの中で最もバッテリー交換がしやすい。

VZ61 SCORPION

WA FULL METAL CUSTOM M16米海兵隊モデル



彫刻機で刻印を刻んだWAのM16米海兵隊モデル。ミリタリー仕様のマーキングが小さな文字にいたるまでシャープに再現されている。

迫力の外観で登場した M16米海兵隊モデル

最前線の緊迫感と残酷さを浮き彫りにして、大ヒットを飛ばした『アメリカン・スナイパー』（日本公開2015年）。装備関係の正確さ、重みのあるドラマなど、クリント・イーストウッド監督ならではの現実感が、スクリーンに映し出されていた。

そんな傑作アクション・ムービーのイメージを、世界トップクラスのリコイルショックと、スムーズな作動を誇る、M4A1フルメタル・カスタムをベースに再現したのが、ウエスタン アームズ（以下：WAの）「アメリカン・スナイパーVer.」。ナイツ・タイプのRASはもちろん、ナイツ・タイプのQD（クイック・デタッチャブル）サイレンサーとフラッシュハイダー、クレーン・タイプのバットストック、エイムポイントM2タイプのポイント・サイトとLMTタイプのリアサイトなど、SEALSのスナイパーが、ボルトア

クションライフルと同時に携行する戦闘用M4A1を、正確にモデルアップして好評を博している。そして今月は、M16A4のアメリカン・スナイパーVer.と言える“M16米海兵隊モデル”が登場した。このモデルも、映画『アメリカン・スナイパー』に、多数登場する現用の米海兵隊型M16だ。

言うまでもなく、ベースは金属音を響かせる操作感がリアルな、M16系フルメタル・カスタム。ハンドガードは、WA M4/M16シリーズ初登場の、ナイツ・タイプのM5ライフルRASを組み合わせている。

ナイツM5ライフルRASは、先端部分側面を削り取っているのが大きな特徴。アンダー・ハンドガードを外し、QD仕様のM203グレネードランチャーをセットするためのデザインだ。アンダー・ハンドガード内部には、削り取ったアッパー・ハンドガードの窓をカバーするための樹脂パーツと、アルミ製のヒート・シールドがセットされている。



レール・ナンパーをマークしたナイツM5タイプのRASを装備。切削加工で仕上げられた高級パーツだ。

2010年9月2日、アフガニスタン—分隊支援火器として2005年に採用されたMG4を構えるドイツ兵。MG4は5.56mm NATO弾で軽量だが、アフガンではしばしば起こる長距離射撃戦では射程・精度の不足があり、こういった状況下では、より大口徑で射程の長いMG5のような機関銃へと転換されることになった。(Photo: Official Medien Bundeswehr)



ドイツ連邦軍の新型ユニヴァーサルマシンゲヴェーア(汎用機関銃)

HK121/MG5

実弾射撃

●Photos & Text by Robert Bruce (USA Military Affairs Editor)
●Translation by Yu P. Eiwaikee

『ドイツ連邦軍の7.62mm口径MG3汎用機関銃の後継として、この21世紀の現代的なデザインはHK121として知られるものである。2013年6月、このモデルはドイツ地上部隊によって選定され、新たに「MG5」と制式化された。MG5はベルト装弾式火器の新世代を切り拓くものである。』——HKの告知資料より

ドイツにおいて70年以上もの長きに渡り運用され続けた機関銃、その初期には「MG42」と呼ばれ、第2次世界大戦後に「MG3」と呼ばれた傑作機関銃も、ついにより効果的な設計のなされた新型機関銃にその座を譲る事になった。

ラインメタル社の送り出したあまたの「軍馬」の中でも最古参となつて

いたMG34/MG3は、製造コストの低さ、操作の簡便さ、野戦での運用に耐える頑丈さ、1,000rpm(毎分1,000発)以上という世界最高レベルの発射速度を誇る一方、現代的な照準システムを搭載する余地が無い、現代的な意味での「汎用」化が難しいなどの問題もあり、新たな(現代的な意味での)汎用機関銃と比較すると不利な点が

色々指摘されていた。その不利は1950年代にはすでに少しずつ判明していた。現にNATO諸国は1960年代以降、FN社のMAG58(FN-MAG)をかなり広く採用している。アメリカ軍が採用しているM240シリーズも、アメリカ版MAGみたいなものである。ベルギーのMAGはドイツのMG3と比べて特別軽いというわけではな



HK121/MG5(歩兵モデル)では銃身はショートモデル(460mmで遮熱ジャケット無し)となる。また必要に応じてグリップ・ボッドのようなパーティカルグリップなどを装備する。ピカティニーレールが多数備えられるようになったため、従来のMG3では困難だった各種オプションの追加装備が容易になった。(Photo: HK)

HK121/MG5(ユニヴァーサル・モデル)

- 製造: H&K社(ドイツ本社)
- 口径: 7.62x51NATO(全てのNATO標準仕様カートリッジ)
- 動作方式: ロングストローク・ガス・ピストン方式
- 閉塞方式: ローテーティング・ボルト/オープン・ボルト方式
- 装填: ベルト装弾、左側のみM13リンク(旧式のDM1リンクにも対応)
- 排莖: カートリッジ下方排出、リンク右方排出
- 射撃方式: フルオートマチックのみ
- ボルト回転率: 毎分600/700/800発に調整可能
- 重量: オプションなし、弾薬なしで24.69ポンド(11.2kg)
- 全長: 標準/バレルと固定ストック装備状態で45.7インチ(1,160mm)
- 照準装置: タイオプター・サイトもしくはピカティニーレール上へ各種照準装置を搭載可能
- 最大有効射程: 600m(バイポッド利用時)もしくは1,200m(マウント利用時)

Acknowledgements
The COMBAT Magazine Team extends special thanks to Robbie Reidsma of HKD and Andy Falcone of HK GMBH, Jimmy White of Trijicon, Crucible training center, and to Long Mountain Outfitters for supplying ammunition for the demo and test.

いが、モジュール化された構造を持ち、歩兵用機関銃や車載機関銃、舟艇搭載、大口徑砲の同軸機関銃、無人ターレット機関銃など様々なタイプに転用が可能という利点がある。なら、ドイツもMAGを採用すれば? 当然彼らは、より良いものを開発する事にした。

「インファンテリスト・デア・ツクンフト」

地元ドイツのHK社(ドイツ国内ではヘックラー・ウント・コッホ社)によって開発されたHK121/MG5は、ブンデスヴェーア(ドイツ連邦

軍)の「インファンテリスト・デア・ツクンフト(未来歩兵)」計画の一環として生まれたものである。直訳すれば「未来の兵士」計画、アメリカにおける「フューチャー・フォース・ウォリアー」計画とほぼ同じ意味の計画名で、その目的も同じである。

この計画の過程で、HK社は既に新型5.56mm口径SAW(分隊支援火器)のMG4が制式採用された(訳注: MG4は初期には「MG43」と呼称されていたもので、これも元々は「MG3の転換計画」のひとつだった。制式採用小銃が7.62mm口径のG3から5.56mm口径のG36シリーズに転換された結果、MG3とG36の間に弾薬互

換性が無くなったのにそのままになっていたため、口径統一の観点から計画されたものである)。

MG4は2004年からアフガニスタンに展開するドイツ兵たちによって運用され、その使い慣らしの良さ、精度、取り回しの良さ、モジュール構造などは好評だった。ただふたつの問題が指摘された。

●5.56mm口径弾の射程不足: タリバンの射撃戦の多くが長射程で行なわれたため、MG4はしばしば射程不足のため効果的に運用できなかった。
●これを補うはずの旧来からの7.62mm口径のMG3は良い機関銃ではあるが、もはや充分とは言えない。